



女性の本の情報誌・ウィメンズブックス・クラブ会報

ウィメンズブックス

New6号 2002年8月25日

ウィメンズブックストア ゆう 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター1F

目次

- 新刊ピックアップ 新刊本の中でも特にお勧めの本をご紹介します (1)
- 著者インタビュー 『法の政治学』の著者 岡野八代さんに聞く (2)
- 最新刊情報 新刊本を解説付きでご紹介しています (3)
- ミニコミ・ミニコミ ウィメンズブックストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です (13)
- 特集 時にはマンガを…その1 『イグアナの娘』 桂容子さん (14)
- HOT・FILE 会員の皆さんのページです。さまざまな情報交換や、プロジェクトの呼び掛けなどにご利用ください (15)
- ウィメンズブックストア TOP5 (5~7月) (15)
- Women's Booksからの風 『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです (16)

(本誌内で紹介している価格は、ご注文の際の便宜上、消費税5%を含んでいます)

新刊ピック・アップ

『文壇アイドル論』

斎藤美奈子著 岩波書店 2002年6月 1785円

『妊娠小説』(ちくま文庫)以来次々と快作を放ち続け、すっかりファンを虜にしている斎藤美奈子が、今度は80年代「文壇村」のアイドルたちを料理した。ここに選ばれたのは8人。いずれも何かと世間を騒がしてきた人たちだ。著作はもちろんのこと、作家論からゴシップ記事に到るまで何でもネタに拾い上げ、「一人の物書き」がアイドルへと押し上げられていく過程を検証している。この人の本はやっぱり面白い。

第1部は、80年代後半のバブル期に、驚異的なベストセラー作家となった村上春樹、俵万智、吉本ばなな。この3人の文壇スーパースターたちを作り出してゆく社会的背景、彼/彼女らを取り巻く批評家たちの右往左往を辛らつに、冷徹に、観察・分析する。

いわく「俵万智を取上げたメディアは男性誌の方が多く、『有識者による書評は、お目々にハートを浮かべた中高年

からのラブコールなのでした』ウンなるほど!

第2部は、「女の時代」と呼ばれた80年代を象徴する2人の女性論客、林真理子と上野千鶴子を俎上に。全く対照的ながら時代のシンボリック的存在でもあったこの二人への批判や賞讃に、どんな背景があったかを探る。目的は違っても二人はともに「頭の固いとおつあんと戦ってきたのではなかったか?」と。

第3部では、作家のワクを超え幅広い言論活動をしているスターたち、立花隆、村上龍、田中康夫を取上げている。それぞれに賛否両論の注目をいやほど浴びている人たちだ。その中味の真実を面白く解き明かしてくれる。

全編を貫いて辛らつだが、同時代人へのある種の「思い」が感じられるのがいい。(T・N)



『岩波 女性学事典』

井上輝子、上野千鶴子、江原由美子、大沢真理、加納美紀代 編集
岩波書店 2002年6月 4830円

無作為に選んだ一つの言葉をとっかかりにして関連語を次々にたどっていくと、時間を忘れる。事典ではあるが、読み物のように「読める」のが、本書である。186名の気鋭の執筆者を並べ、女性学関連語、858



語を解説している。

字の大きさや本の版・厚さ、装丁など、苦心したのだろう。使い心地が丁度いい。価格も、これだけの情報がつまっているのだから、妥当というべきか。机上に一冊あると便利この上ない。

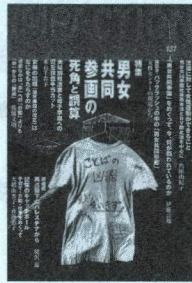
あえて言うならば、ジェンダー論、フェミニズム論を中心にして、まだ、こなれていない記述が、若干だが、ある。研究者以外にはわかりにくい域に入ってしまったジェンダー論、フェミニズム論だからこそ、この事典でもう少しなんとかしてほしかった。(Y・M)

『インパクション 131号』

インパクト出版会 2002年7月10日発行
1260円

いつもしっかりした内容の社会派雑誌であるが、今回は、特集「男女共同参画の死角と誤算」を組み、「男女共同参画」へのバッシングを取り上げている。

面白いのは、堀田碧著「男女共同参画的アクロバット」。「やっぱり女は家に」の守旧派オヤジからのバッシングと闘うためには、「企業のためには女でもいい」と言ってくれる経団連的事業者とも手を携える必要がある。が、「女も男も過労死してまで働け」という彼らの本音には明確に「ノー」を言わなければならない、という。こうした「男女共同参画的アクロバット」をこなすためには？ 堀田は、(アクロバットができるように)「体を柔らかくして『批判』ではなく『提案』を」というけれど、



柔らかくなるのにも確固たる意志と力が必要だ。

何が起きているのかもうひとつわからないまま悩んでいる方には、伊藤公雄著「『男女共同参画』をめぐる、今、何が問われているのか」をまずはお勧めしたい。現在進行しているバッシングの「事情」がわかりやすく説明されている。しかけるにしても引くにしても、頭をクリアにしておく必要がある。

その他、「法律に対して女性運動ができること—男女共同参画社会基本法とDV防止法を中心に」(インタビュー：角田由紀子)、「バックラッシュの中の『男女共同参画』：女性センターの現場から」(座談会)など。バッシング撃退の成否は、守旧派と新保守派の両方からの「攻撃」に対して、男女共同参画を「掲げる」行政がきちんと政策におとしこんでいけるか、腰を引いてしまうのか、女性たちと連携できるか、にかかっている。現場の行政担当者にも、是非読んでいただきたい一冊。(Y・M)

『法の政治学—法と正義とフェミニズム』

岡野八代著 青土社 2002年7月 2730円

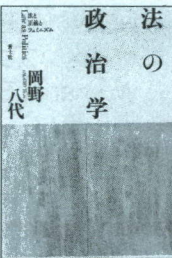
従軍「慰安婦」の問題を「まともに」考えようとしても、大方の人は、「慰安婦」という発想やそれを生み出した「日本帝国」へのいいしれぬ嫌悪だとか、今もってはっきりしない「日本政府」の「対応のまずさ」だとか、或いは、生まれる前の出来事への他国からの責任追及への「当惑」や「憤慨」に収斂させてしまうのではないのだろうか。

しかし、「慰安婦にさせられた」女性たちの、体全体で表現する訴えに正面から接すると、本当はそれだけではすまない「何か」があることを、誰もが感じるはずである。その「何か」を追及しているのが、本書である。

国民/外国人、男性/女性、私的領域/公的領域という

「二分法」を形づくる境界線によって、「法のうちにあるもの」と「法外のもの」とが区分される、その「政治」こそが、従軍「慰安婦」の問題を「過去のもの」あるいは「道義的な責任をとればいいもの」へと押しやっていくのであり、「押しやる」力の契機は、私たち「国民」にあると著者はいう。

ハンナ・アーレントを始めとする政治思想理論を駆使しての記述は、時間をかけてつきあうことを必要とする部分も多い。しかし、「昭和天皇有罪」まで引き出した女性国際戦犯法廷の意義と従軍「慰安婦」問題に対する今後の方向性を見極めるためには、なくてはならない一冊だと考える。(Y・M) (関連図書紹介8ページ)



著者インタビュー 第6回

『法の政治学』の著者 岡野八代さんに聞く



(立命館大学法学部教員)

Q：「法の政治学」とは、ちょっと難しいタイトルかと…

A：形式的平等を主張していた第一波フェミニズムの時代を過ぎて、いくら法制度が整ってもジェンダーの現実がある限り実質的な平等にはならないと主張しているのが第二波フェミニズムなのですが、そういう「法」や「制度」の「不完備」をもたらしているのが、私たちの生きている社会の「政治」なわけです。「法の前平等」とかいいますが、フェミニズムは、まだ、「法」そのものに介入していない。「政治」とフェミニズムが相容れない状況が、現代社会の「法の政治」なのかと思います。そこを批判したかったのです。

Q：従軍「慰安婦」を巡る「女性国際戦犯法廷」は、正面からそうした「政治」に切り込んでいったわけですね。

A：そのとおりです。「道義的責任はあるが法的責任はない」という立場にたつ日本政府に対して、当時の国際法にのっとっても「昭和天皇は有罪」であり、日本政府は法的責任を負うとしたのが、「法廷」の「判決」でした。日

本のフェミニズム運動の大きな成果だったと思います。

Q：ご著書には、それまでは日本の「国」のことだと考えていた従軍「慰安婦」問題を「日本国民であるわたし」にひきつけて考える直接のきっかけになった、在日韓国人のお友達との会話をめぐると話が出てきます。

A：同時期にカナダに留学していて、あちらで従軍「慰安婦」の記事に接したのですが、その時、彼女から「慰安婦の問題は、『日本国民』としての『あなたたち』の問題」であり彼女の問題ではないといわれたのです。彼女と「わたしたち」を区切っている「国籍」とか、従軍慰安婦問題を「私」の領域に閉じ込めようとする「公」と「私」とか、「男」と「女」とかの「二分法」は何なのだろうと考えました。

Q：もうすぐニューヨークに留学なさるとのことですが

A：ニューヨークには、女性国際戦犯法廷の資料やビデオを持っていくつもりです。「法廷」の判決文を十分に精査して、90年代に日本のフェミニズムが取り組んできた従軍「慰安婦」問題を紹介し、世界に発信していきたいです。「フェミニズムは終わった」とか言われたりしますが、法とフェミニズムが乖離したままの中で、まだまだやることは多いのです。研究者としてできることは何かを考えながら、これからも、一歩ずつ進んでいきたいです。

Q：どうもありがとうございました。(聞き手：森屋裕子)

★ 最新刊情報 ★

フェミニズム・女性学…… (3)	こころ・癒し…… (6)	女性史・歴史…… (10)
仕事…… (3)	からだ…… (7)	自伝・評伝…… (11)
法律・政治・政策…… (4)	セクシュアリティ…… (7)	高齢・福祉…… (11)
家庭・家族…… (5)	セクハラ・暴力…… (7)	メディア…… (12)
子育て・教育…… (5)	文学・エッセイ・芸術…… (9)	資料…… (12)
		雑誌…… (12)



〔フェミニズム・女性学・男性学〕

『エスニシティ・ジェンダーからみる日本の歴史』

黒田弘子 長野ひろ子編 吉川弘文館 2002年6月 3360円
少数民族の視点、ジェンダーの視点、セクシュアリティの視点から、日本の歴史像の再構築を試みた。アイヌ民族や蝶々夫人についてなど15の論文集。

『環境を平和学する！「持続可能な開発」からサブシステンス志向へ』

戸崎純 横山正樹編 法律文化社 2002年6月 2205円
グローバリゼーションの時代を背景としたリプロダクティブライツ、エコフェミニズムについての言及も。

『女性文化とジェンダー』

昭和女子大学女性文化研究所編
御茶の水書房 2002年3月 5040円
昭和女子大学女性文化研究所開設15周年の記念出版。女性文化概念の多義性(伊藤セツ)等。

『ジェンダーの視点で読む聖書』

絹川久子著
日本キリスト教団出版局 2002年5月 2520円
フェミニズム神学の立場から、聖書を読み解いている。聖書にある66の物語は、すべて男性の手によって、その時代の状況を反映しながら書かれていることが、淡々と述べられている。静かな書きぶりだけに興味深い。

『「青鞥」という場 文学・ジェンダー・〈新しい女〉』

飯田祐子編 森話社 2002年4月 2835円
文芸誌と銘うたれた『青鞥』であるが、その「場」に集う女性たちには、実に様々な思い、立場、書き手としての欲望が渦巻いていた。その不整合生、不定形性が、あの時代の女性の雑誌である『青鞥』の本領なのかもしれない。「〈語りにくさ〉と読まれること」(飯田祐子著)「民族と女性、ゆらぐ〈新しい女〉」(孫知延著)など、力作ぞろい。



『転換期の女たち 国家・ジェンダー・文学』

小柳康子 佐賀裕実 米須初美 小林純子著
近代文芸社 2002年3月 1785円
メアリ・アステル、ハナ・モアなどの作品を通じ、イギリスの文学テキストに表れたジェンダーを論じている。

『途上国の人口移動とジェンダー』

早瀬保子編著 明石書店 2002年6月 2940円
人口移動研究も、従来は経済的要因からとみられる男性移動に集中しており、婚姻等が理由と見られる女性移動研究はほとんど存在しなかった。本書で展開されているジェンダー視

点からみた女性移動研究は、その点、出色。最新データと統計手法を使った専門書であるが、途上国の女性たちの生活に生々しく迫っている。

『ユングとフェミニズム 解放の元型』

デマリス・S・ウェア著 村本詔司 中村このゆ 訳
ミネルヴァ書房 2002年6月 2730円
“フェミニスト”にはあまり評判が良くない「ユング心理学」。しかし、フェミニズムもユングも人間理解には欠かせない視点を提供していると、著者は言う。「フェミニスト神学」の立場でユングをこのように読むと、ユング心理学の良さにも気づくことになるのかもしれない。

〔仕事〕

『インターネットと21世紀型女性の起業』

渡邊桃伯子 川野真理子著
新水社 2002年7月 1470円
インターネットを使って人生を変えた9人の女性たち。生活を豊かにするIT活用方法など、便利な情報がまとめられている。商用インターネットが本格的に始まって、まだ5年だそうだ。



『女性労働研究No.42 介護労働の国際比較』

女性労働問題研究会編 青木書店 2002年7月 1575円
特集1のテーマは、介護労働。国際的視点と日本の現状分析から、社会的地位の向上に向けての課題に迫っている。特集2は、均等法アクション2003の課題について。

『キャリア・コンサルタント入門』

大石友子監修・執筆
東京リーガルマインド 2002年4月 998円
最近注目されているキャリア・コンサルタントになりたい人のための手引き書。

『女性の転職・再就職 採用される女はココが違う』

松永詠美子著 全日出版 2002年6月 1365円
不況時代の転職・再就職活動のノウハウを満載。

『女性マーケターが時代を拓く！ コンシューマー・イン型のブランド戦略』

市橋和彦著 PHP研究所 2002年4月 1470円
「女性消費者が8割のブランド選択を行っている」事実をもとに、女性マーケターの重要性と役割、トレーニング方法などを説く。

『その仕事、好きですか？』

南ゆかり著 ワニブックス 2002年6月 1260円
仕事が「好き」といえる女性20人が登場する。収入や労働条件が特別いいわけでもないのに、続けられるのは、仕事が好きだから。

『誰だってワーキングマザーになれるんだ!』

百瀬いづみ著 海竜社 2002年5月 1470円
仕事も結婚も出産もしたい女性たちへの応援歌。『日経ウーマン』の連載で好評だったシリーズが本になった。

『得する共働きマニュアル 100のQ&A』

木全美千男著 成美堂出版 2002年4月 1260円
共働きをしていく上で問題となりそうな事項への、法手続き面からのアプローチの仕方。

『ネットワークほどすてきなビジネスはない!』

空閑貞子著 ビジネス社 2002年4月 1260円

『2003年度版 福祉の仕事オールガイド』

資格試験研究会編 実務教育出版 2002年5月 1680円

『旅館の女将(おかみ)に就職します』

倉澤紀久子著 バジロコ株式会社 2002年6月 1365円
旅館の女将を育てる城崎温泉「女将塾」にかかわった人々の記録。

『わたしたち海外で働いています』

河添恵子著 学研 2002年2月 1365円
海外で働いている女性たちの姿をレポート。16カ国で働く20人の女性たちの海外トラバーク。

〔法律・政治・政策〕

『愚かな国の、しなやか市民 女性たちが拓いた多様な挑戦』

横田克己著 ほんの木 2002年6月 1680円
生活の中から政治をみつめ、切り込んでいこうという、生活クラブ運動のオピニオンリーダーが語る、30年の軌跡。

『Q&A労働法実務シリーズ 雇用機会均等法・育児介護休業法』

岩出誠他著 中央経済社 2002年6月 3570円

『新版 共生の法律学』

大谷恭子著 有斐閣 2002年5月 1995円
障害者、感染症の人、アイヌ民族、外国人、部落、ホームレス、性的マイノリティ、そして女性——日本でテーマになっているマイノリティの人権問題を精鋭の女性弁護士が説き明かす。DV防止法、人権教育推進法、ハンセン病判決など、大きく動く日本の法的状況の中で、まだ追及されなくてはならない問題点が、突き出されている。

『現代女性と法』

中川淳編 世界思想社 2002年5月 1680円
初学者のための入門書。今日的課題がひとつと紹介されている。

『研究双書No.523 後発工業国における、女性労働と社会政策』

村上薫編 アジア経済研究所 2002年3月 2520円
グローバル時代の開発モデルの導入により、アルゼンチン、メキシコなどの様々な後発工業国でも、家族ジェンダーモデルが欧米工業国と同じ役割分担型に推移しており、かつ、女

性の労働力化過程で女性労働力が差別されている。貴重な論文が並んでいる。

『子どもの権利ノート』

井上仁著 明石書店 2002年4月 2310円
東京都福祉局による「東京都子どもの権利ノート」の民間の立場からの解説書。「行政」という制約をとかれた上での記述は、建設的で、好感がもてる。

『市民主権の可能性 21世紀の憲法・デモクラシー・ジェンダー』

辻村みよ子著 有信堂 2002年5月 4410円
グローバル化による国家国民の相対化や分権化等により、「主権」や「市民」の概念は再構築されなくてはならない。そして、それは、ジェンダーフリーな個人を主体とする市民社会の創造に他ならない。

『ジェンダーの法律学』

金城清子著 有斐閣 2002年4月 1785円
ジェンダーの視点からみた法律学の解説書。ジェンダー統計、国際社会とジェンダー、アンパイドワークの法律問題など、わかりやすい。『法女性学』によってこの分野を切り拓いてきた著者の最新作。

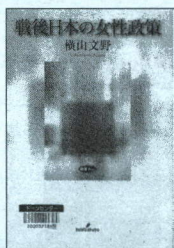


『女性と年金 女性のライフスタイルの変化等に対応した年金の在り方に関する検討会報告書』

(株) 社会保険研究所 2002年2月 1890円
「女性と年金検討会」の報告書。

『戦後日本の女性政策』

横山文野著 勁草書房 2002年5月 6300円
戦後の女性に関わる公共政策の特質は「一定の家族モデル」をもとに構築されていることを実証し、その展開と変遷を時代を追って論じている。労働力再生産の将来的方向として「個人単位」制度を打ち出しているが、著者も言うようにその展開はこれからである。まだ若い著者の今後が充分楽しみな1冊。



『なんでやねん』

辻元清美著 第三書館 2002年5月 1260円
著者が辞職するに至った「迷走の1週間」の「説明」。著者の気持ちはわかりつつも、やはり、もっとじっくりした考察と反論が必要だと思う。次作に期待したい。

『貧乏議員 国会「イビリの掟」を笑う』

川田悦子著 講談社 2002年4月 1575円
2000年秋の補欠選挙に無所属で立候補し衆議院議員になった著者の議員生活。

『夫婦関係調停条項作成マニュアル 文例・判例と実務』

小磯治著 民事法研究会 2002年3月 2205円
家事調停事件についての極めて実務的な研究。

『やるっきゃない』

金希宜著 梁東準訳 晩聲社 2002年2月 1890円

女の駆け込み寺、女性若年定年制撤廃、男女平等社会実現運動、統一運動等々、獄中生活、逃亡生活を繰り返しながら貫くエネルギーのすごさは、ハンパではない。日本の新聞にも出てくる代表的な韓国女性国会議員の半生がこれほどだとは、知らなかった。

『私の政治の歩き方 タフでなければ変えられない』

小宮山洋子著 八月書館 2002年6月 1470円
民主党参議院議員小宮山洋子の報告。DV防止法やダーバン差別撤廃世界会議、女性天皇制をめぐる動きなど。議員の生活や考え方を知るために。

〔家庭・家族〕

『池内ひろ美の離婚の学校』

池内ひろ美著 主婦の友社 2002年5月 1575円
早く、リーズナブルに離婚するコツ。

『オンリー・ラブ 進化する結婚』

石坂晴海著 現代書林 2002年6月 1575円
非欧米系の外国人男性と結婚した、ごく普通の日本人女性たち。ビザも社会的保障もない男を好きになったのだから、「男運が悪い」のかもと、著者は言う。しかし、彼女たちに共通している精神的な満足感は何なのだろう。要するに、「結婚は進化している」のだ。

『家族と法 親族編』

慶應義塾大学出版会 2002年6月 1470円
民法親族編の解説。

『家族のゆくえ』

小川晴子 本田弘子編 三学出版 2002年4月 1890円
「家族」について、様々な分野から7人が執筆した。「産む、産まない」「育児、介護」「お墓」の問題など。

『結婚したくてもできない男 結婚できてもしない女』

白河桃子著 サンマーク出版 2002年6月 1680円
「サラリーマンの夫に専業主婦の妻、子ども二人」という日本の標準世帯モデルが崩れた波をモロにかぶっている、あるいはその波をつくってきたのが60年代生まれの男女である。そうした男女の「今」を、同世代の著者が取材している。今の日本、どうして男女はすれ違ってしまうのか、を求めて。

『2003年版 女性のための離婚講座』

自由国民社 2002年6月 1680円
小説仕立てで解説する離婚のやり方。

『社会福祉基礎シリーズ⑥ 子ども家庭福祉とソーシャルワーク』

高橋重宏他編 有斐閣 2002年6月 2100円
子どもと家庭(親)のウェルビーイングのためのソーシャルワーク(社会福祉)についての1冊。

『シングルマザー これがわたしの生き方』

奥村典子著 ボイックス 2002年6月 1260円
「未婚の母」が各地のシングルマザーを訪ねインタビューした。著者いわく、「みな、からだの直感に従って生きている」。不器用だがぬくもりがある生活をしているという。

『ばつっ子倶楽部 “離婚”を選ぶ勇氣』

新川てるえ著 あおば出版 2002年4月 1260円
「離婚&シングルマザー情報サイト」である「母子家庭共和国」での情報交換をもとに書かれた。離婚経験者の生の声のっている。

『妻には、言えない……。』

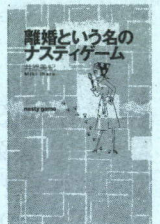
吉村和久著 主婦の友社 2002年5月 1365円
コミュニケーションのモンダイだと、ひとことで片付けることができない、夫が妻に「言えない」こと、「言わない」こと。

『夫婦という幸福 夫婦という不幸』

沖藤典子著 集英社 2002年5月 1680円
寿命の延びた今、中年期以降も長い年月一緒に暮らす夫婦。男の言い分、女の言い分、夫婦のロマンやフマン、平凡な夫婦たちの真実の姿は?

『離婚という名のナスティゲーム』

井原美紀著 集英社 2002年7月 1680円
離婚体験記。ナスティゲーム(薄汚いゲーム)の体験がカラリと書かれている。



『離婚のことがなんでもわかる本Q&A』

木全美千男 進藤裕史著 中央経済社 2002年7月 1890円
離婚の際、知っておきたいことをQ&A方式で。

〔子育て・教育〕

『親と教師が少し楽になる本 教育依存症を超える』

佐々木賢著 北斗出版 2002年4月 1890円
教育の荒廃は、当事者である親や教師の問題というより、ポスト近代社会の制度疲労の問題なのではないかという視点から書かれている。外国の例など読むと、確かに、日本だけの問題ではなさそうだ。

『子育てママのはなまる相談室』

SCCライブラリーズ編 2002年4月 998円
ホームページ「子育てはなまる」の「教えてください掲示板」によせられた質問やアドバイスが掲載されている。子育てのノウハウもパソコンから取るようになった。

『子どもたちの声がきこえますか 子どもが犠牲になる社会』

毎日新聞社 2002年4月 1680円
毎日新聞社会面で好評連載されたシリーズに加筆され、出版された。若手中心の記者たちの真情が伝わってくる真摯なシリーズであった。

『仕事を持つのは悪い母親?』

シルヴィアンヌ・ジャンピノ著 鳥取絹子訳
紀伊国屋書店 2002年7月 1680円
「母性信仰」「母親絶対論」とらわれると、子育てを「独りで」「時間に追われて」「憂鬱に」こなすようになってしまうという。ひとりで背負わなくても大丈夫、というメッセージが詰まっている。

『父親力 母子密着型子育てからの脱出』

正高信男著 中公新書 2002年3月 693円
「母性、父性」を強調すると、拒否反応を起こす人がいるかもしれない。しかしここでは、父性と父親、母性と母親は同義ではない。父性を再定義した上で、「やせほそる父性」こそが現代の子育ての問題点なのだと言っている。

『国際人権ブックレット9 東アジアの男女平等教育』

ヒューライツ大阪編
解放出版社 2002年3月 1050円
儒教の影響が強いといわれる韓国、台湾、日本の男女平等教育の取り組みと課題を紹介している。状況にも課題にも共通性があることがわかる。



『明治初期女児小学の研究 近代日本における女子教育の源流』

高野俊著 大月書房 2002年3月 9450円

『よくわかる子ども家庭福祉』

山縣文治著 ミネルヴァ書房 2002年4月 2520円
サービスを提供する側の視点で考えられがちだった従来の「児童福祉」の枠組みが、サービスを受ける子どもたちを中心としたものに変えられつつある。本書ではこの新しい枠組みを「子ども家庭福祉」と名付け、新しい視点とポイントをわかりやすく提示している。

【こころ・癒し】

『アディクション 〈治療相談先・自助グループ〉全ガイド』

ASK (アルコール薬物問題全国市民協会) 著
ASK 2002年7月 3360円
アディクション(嗜癖)とその周辺問題からの回復に関して、全国の治療相談先、自助グループ等の幅広い情報が掲載されている。追加情報をホームページで提供する試みは、ユニーク。

『ありすぎる性欲・なさすぎる性欲』

ウィリー・パジニニ著 川本英明訳
草思社 2002年4月 1575円
セックスレス・カップルの一方に、セクハラあり、性暴力あり。消費社会の波に組み込まれ、バランスのとれたあり方を失ってしまっている現代の「性欲」。どうしたらいいかを、性科学者が説き明かしている。

『新しいカップル カップルを維持するメカニズム』

ロベール・ヌービュルジュ著 藤田真利子訳
新評論 2002年5月 2100円
初婚年齢も離婚率も、上昇の一途をたどっている。しかし、これは、「カップル」が時代遅れになったのではなく、「カップル」への期待が高まっているからだ、と著者はいう。カップルを対象としたセラピーを専門とする著者が語る「カップルを維持する方法」。

『新版 カウンセリング心理学 カウンセラーの専門性と責任性』

渡辺三枝子著 ナカニシヤ出版 2002年4月 2100円
カウンセラーとは、カウンセリングとは、という根本的テー

マを扱っている。カウンセラーの行為に理論的根拠を与える「カウンセリング心理学」の確立を、著者は主張する。

『キャリア カウンセリング』

宮城まり子著 駿河台出版社 2002年4月 1785円
キャリアに関しての問題や悩みを解決するだけでなく、キャリア計画作成までも支援するのがキャリアカウンセリング。リストラばやりの昨今注目されているが、その全容を紹介。

『クライシス・カウンセリング ハンドブック』

カリフォルニア開発的カウンセリング協会編
誠信書房 2002年3月 1995円
虐待、暴力、死別、災害、失業など、様々な危機(クライシス)の時はどう対応すべきか。伝統的カウンセリング手法では対応できない、「危機介入」のためのハンドブック。

『サバイバーと心の回復力』

『逆境を乗り越えるための七つのレジリエンス(回復力)』

ステイヴン・J・ウォーリン シビル・ウォーリン著
奥野光 小森康永訳 金剛出版 2002年5月 4610円
サバイバーの臨床面接をもとに書かれた専門書。「レジリエンス=サバイバーのもつ強い回復力」という新しい概念を紹介した本。事例も示してわかりやすく解説している。

『自分を表現して生きる』

内野久美子著 勉誠出版 2002年6月 1470円
「自分の歩く道」をみつけるための本。

『スクールカウンセリングの基礎知識』

楡木満生編 新書館 2002年7月 1785円
スクールカウンセリング制度の本格的活用が始まった。年々深刻になる日本の子どもたちの悩みに真剣に取り組もうとする人たちが、スクールカウンセリングの取り扱う問題と実際を解説した。

『スクールカウンセラーの仕事』

伊藤美奈子著 岩波書店 2002年6月 735円
ここ10年、急速に発展してきたスクールカウンセラー事業を解説している。

『母親の心理学 母親の個性・感情・態度』

村井則子著 東北大学出版会 2002年5月 1890円
母子関係を母親の側からみる考察は、子どもの側からみる考察ほど進んでいないという。母親の個性や感情、態度が母子関係にどう影響しているのか、興味深い記述が並んでいる。

『分析おことわり! 私たちは摂食障害とこんなふう生きてきた』

NABA 日本アノレキシア・ブリア協会編
東峰書房 2002年3月 1890円
NABAとは摂食障害者の自助グループ。「先生」のもとから離れ、「分析おことわり!」と言い切ることができるまでになった歩みは、尊い。

『私、引きこもり主婦です。どんな自分にも「YES!」を』

さとうまきこ著 講談社 2002年5月 1575円
50代になってうつ状態になった作家の体験記。生きていくのに「うつ」は必要だったのだという心境に行き着いたようだ。

〔からだ〕

『更年期外来診療マネージメント』

太田博明著 南江堂 2002年7月 6300円

『危険がいっぱい!? 「更年期の夫」とつきあうレシピ
<改訂版>』

宮西ナオ子著 三修社 2002年6月 1365円
男性にも更年期が訪れる。知っておくべきことがいっぱいありそうだ。

『Safety Love 女性の性と身体を守る』

松本和紀著 海苑社 2002年5月 924円
安全で健康なセックスのために知っておかなければならないことを、産婦人科医が語る。

『女性の医学 治療はここまで進んでいる』

祢津加奈子著 中央公論新社 2002年7月 1680円
病気になってもQOL(生活の質)を維持しながら治療法を選び取っていけるように、との趣旨で書かれている。最新医療技術の紹介や女性医療に強い病院のリストもあり、役に立ちそうな本である。

『女性のためのアメリカ医療ガイド』

福永玲子 ウィリアム・P・ラックマン著
ジェトロ 2002年1月 1680円
アメリカに住む日本女性に向けて、アメリカでの婦人科のかかり方等を解説。アメリカ医療事情がわかって、日本在住者にとっても、興味深い。

『女性のからだ応援シリーズ1 乳がん』

あなたの答えがみつかる本』

近藤誠 アイデアフォー著 双葉社 2002年6月 1470円
絶対に治るという保証がない以上、病気になったときには、患者が自分の価値観で治療法を選び取っていく必要がある。医師と患者の会の共著である本書は、乳がんになったときの自己決定権の行使に役立つだろう。

『不妊症 新たな選択とジレンマ』

エリザベス・ブライアン ロナルド・ヒギンズ著
メディカ出版 2002年1月 2730円
体外受精や代理出産、クローニングなど、不妊症の治療には、本当に様々な選択肢が生まれてきた。しかし、心理的葛藤やジレンマ、危険も、その分だけ、多様で新しい。

〔セクシュアリティ〕

『男の子の体と性の悩み 正常から病気まで』

永尾光一著 少年写真新聞社 2002年7月 1980円
性と生殖に関する診療を行うリプロダクションセンターが、男子思春期診療について一般にもわかりやすく説明している。カラー図版入り。

『女が少年だったころ ある性同一性障害者の少年時代』

佐倉智美著 作品社 2002年6月 1470円
自分の性別に違和感を抱き続け、社会的・文化的性別を「女」と転換した筆者の、少年期から高校時代までの自伝的エッセイ。

『季刊 SEXUALITY 人間と性をめぐる教育と文化の総合情報誌』

エイデル研究所 2002年7月 1500円
特集は「今日のエイズ・性感染症」。内野英幸、対馬ルリ子、村瀬幸治の鼎談や池上千寿子の性教育への提言など。

『キリスト教は同性愛を受け入れられるか』

ジェフリー・S・サイカー編 森本あんり監訳
日本キリスト教団出版局 2002年5月 4830円

『子どものセックスが危ない』

赤枝恒雄著 WAVE出版 2002年6月 1575円
著者は、六本木のハンバーガーショップで「街角女性健康相談室」を開いている産婦人科医。「ビョーキまみれの日本のセックス」だという。しかし、「子どもたちに可能性はある」とも。

『性同一性障害と法』

大島俊之著 日本評論社 2002年6月 6300円

『データブック NHK日本人の性行動・性意識』

NHK「日本人の性」プロジェクト著
NHK出版 2002年3月 1890円
日本で初めての無作為抽出による疫学的な「日本人の性行動、性意識調査」。中絶、セックスレス、10代の性経験、世代間較差など、調査結果が浮き彫りにした姿は生々しい。上野千鶴子、宮台真司による対談つき。

『同性愛・多様なセクシュアリティ 人権と共生を学ぶ授業』

“人間と性”教育研究所編
子どもの未来社 2002年7月 2625円
性的マイノリティの人権問題はようやく社会的に認識され始めているが、学校教育における扱いは、皆無に等しい。それに踏み出す教育実践の第一歩として書かれたのが本書である。授業実践例やサポートグループの紹介等、実際に役立つ内容。読み物としても興味深い。

『マンガ セックスのすべて教えます』

ゴニック&デヴォールド著 岡野俊子訳
白揚社 2002年4月 1995円
男女が会ってからベッドに至るまでの事柄で、知っておいた方がよいことを、絵と文で具体的に取り上げ、解説している。データも豊富。嫌みのない絵と文で、わかりやすい。ナルホドと感ずることができる本。

〔セクハラ・暴力〕

『Q&A 女性国際戦犯法廷 「慰安婦」制度をどう裁いたか』

VAWW-NETジャパン編 明石書店 2002年5月 840円
2000年12月に開かれた女性国際戦犯法廷について、Q&A方式でわかりやすく解説している。慰安婦制度の背景には、女性差別、民族・人種差別、階級差別が存在する。パッシングの中、毅然と出版を続けるVAWW-NETジャパンに敬意を表する。

『こころを殴られた子どもたち』

吉廣紀代子著 毎日新聞社 2002年6月 1575円
被害女性、加害男性とたどってきた著者が、今回はDV家庭

で成長した男女にインタビューした。DVの最大の被害者は、子どもなのだ。

『国家は女性虐待を救えるか スウェーデンとアメリカの比較』

エイミー・エルマン著 細井洋子 小宮信夫訳
文化書房博文社 2002年6月 2100円
著者の関心事は、国ごとの女性虐待(レイプ、暴行等)の統計的現象ではなく、構造としての国家が性暴力にどう対応しているかという政治的な問題である。著者が選んだのは、女性福祉先進国のスウェーデンと、自由主義的なアメリカ。詳細な調査に基づく分析により出た結果は、意外なものだった。女性虐待をなくすために、誰が何をなすべきなのかを考えるヒントが詰まっている。



『子ども虐待と援助 児童福祉施設・児童相談所のとりくみ』

中竹哲夫 長谷川真人他著
ミネルヴァ書房 2002年6月 2520円
子ども虐待をめぐる実践現場のとりくみの視点から、子どもと親への援助のあり方を描いている。

『子ども虐待の福祉学 子どもの権利擁護のためのネットワーク』

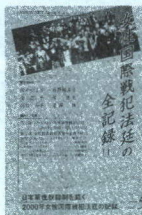
浅井春夫著 小学館 2002年7月 1785円
保育者や子ども虐待にかかわる専門家にとって最低限必要な課題のポイントを、網羅的に解説している。基本を学ぶのにちょうど良い1冊である。

『児童虐待の早期発見と防止マニュアル 医師のために』

(社)日本医師会監修 明石書店 2002年7月 840円
児童虐待の早期発見と予防のために、医師会が監修してマニュアルがつくられた。地域で子どもたちを育てていくために役立てたい。

『女性国際戦犯法廷の全記録〔I〕 日本軍性奴隷制を裁く2000年女性国際戦犯法廷の記録vol.5』

松井やより 西野瑠美子他責任編集
緑風出版 2002年5月 3570円
2000年12月に東京で4日間にわたって開催された「女性国際戦犯法廷」の克明な記録(第1部)と、法廷の重要論点に関する5つの論文(第2部)。法廷を正しく理解するために。



『女性国際戦犯法廷の全記録〔II〕 日本軍性奴隷制を裁く2000年女性国際戦犯法廷の記録vol.6』

松井やより 西野瑠美子他責任編集
緑風出版 2002年5月 4095円
女性国際戦犯法廷の記録の最終刊。本号には、共通起訴状、各国起訴状、判決文全文が載っている。これで全巻が刊行された。



『女性情報ライブラリー Vol.1 ドメスティック・バイオレンス データブック2002』

パド・ウィメンズ・オフィス 2002年6月 1050円
DV防止法が施行されてから1年の動きを、新聞の切り抜き誌

『女性情報』からピックアップして整理している。国、自治体、各地グループ等の項目ごとにまとめられているので、動きがよくわかる。

『DV ～女性たちのSOS～』

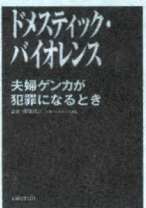
人権文化を育てる会編 ぎょうせい 2002年7月 2400円
2004年を目途に予定されているDV防止法の見直しを念頭に置いて本書が編まれた。各界の専門家たちが、DV法をめぐって多様な角度から考察している。

『DVを乗り越えて ここは私たちのレストラン』

野本律子著 文芸社 2002年6月 1050円
DVを乗り越えて、シェルターを開き、レストランを経営するようになるまでの記録。自分を取り戻し、自分で人生を切り拓いていく自立の物語。

『ドメスティック・バイオレンス』

戒能民江著 不磨書房発行
信山社発売 2002年4月 3360円
DV防止法制定に向けて研究と運動を続けてきた著者の10年間の論文集。外国での取り組みや最近の国内の動きを追っている。関係機関の人たちには必読の書。



『ドメスティック・バイオレンス 被害者と加害者の癒し』

西尾和美著
(株)IFF出版部ヘルスワーク協会 2002年3月 630円
ヘルスワーククラブで行った西尾和美の講演録。

『シリーズ・身をまもる(1) 暴力や虐待から身をまもる』

安藤由紀著 ポプラ社 2002年4月 2100円
子どもたちが身を守る方法を絵と文でつづる。著者はPEACE暴力防止トレーニングセンター代表。

『ナナムの家歴史館ハンドブック』

ナナムの家歴史館後援会編 柏書房 2002年7月 2100円
「慰安婦」の人たちの証言を記憶するために1997年に設立された「ナナムの家歴史館」の展示物の記録・解説(第1部)と、ナナムの家に住むハルモニたちの生涯の記録(第2部)、ナナムの家を訪れた人々のエッセイ(第3部)で構成されている。

ついに全巻刊行

シリーズ「日本軍性奴隷制を裁く…2000年女性国際戦犯法廷の記録」

- VAWW - NET Japan編
緑風出版 2000年5月～2002年7月
山川菊栄特別賞、日本ジャーナリスト会議JCJ特別賞受賞
- 『第一巻 戦犯裁判と性暴力』 2940円
- 『第二巻 加害の精神構造と戦後責任』 2940円
- 『第三巻 「慰安婦」戦時性暴力の実態Ⅰ』 3150円
- 『第四巻 「慰安婦」戦時性暴力の実態Ⅱ』 3570円
- 『第五巻 女性国際戦犯法廷の全記録Ⅰ』 3570円
- 『第六巻 女性国際戦犯法廷の全記録Ⅱ』 4095円

(関連 左に掲載)

『もっと知ろう! セクシュアルハラスメント』

ジョージ・E・ハウズ著 東敏昭他訳
労働調査会 2002年4月 525円

米国のセクシュアルハラスメントのアドバイザーが企業での
アドバイスに使うガイドブックの翻訳版。

〔文学・エッセイ・芸術〕

『iモード以前』

松永真理著 岩波書店 2002年7月 1470円

『iモード事件』以前の松永真理、リクルートでの20年。挑戦
して「チャンスをつかむ」キャリアウーマンの姿。

『悪女の物語』

藤本ひとみ著 中央公論新社 2002年5月 1995円
悪女と呼ばれたマリー・アントワネットの娘と色情狂といわ
れたマルゴ王妃の、歴史に翻弄された生涯の物語。

『アナイス・ニンの少女時代』

矢川澄子著 河出書房新社 2002年5月 2100円
ヘンリー・ミラーの恋人、『日記』の作者として世に注目され
たアナイス・ニンが著者の関心を本当に
引くようになったのは、アナイスの死後、
「本当の日記」たる「無削除版『日記』
」が続々と世に出てからだという。本書は、
アナイスの少女時代の無削除版日記の徹
底的な解説本である。一人の作家を読み
込むと、こういう風になるのか、とうな
らせてくれる。本書出版を待たずに自死
してしまった著者の心情は、もう聞けな
いけれど。



『アメリジャンの子供たち 知られざるマイノリティ問題』

S・マーフィ重松著 坂井純子訳
集英社新書 2002年5月 756円

アメリジャンとは、アメリカ国籍を持つ親とアジア諸国の国
籍を持つ親の間に生まれた人のこと。アメリカ軍事戦略の巨
大な影である。「今まで注目されてこなかった世界的規模のマ
イノリティ」であると、自身もアメリジャンである著者は言う。

『愛しの筋腫ちゃん』

横森理香著 集英社Be文庫 2002年5月 580円
33歳で子宮筋腫を診断された著者の、「自然治癒」の体験談。
以前より体調良好、ハッピーだという。

『老いかた上手』

吉沢久子著 経済界 2002年4月 1400円
吉沢久子の最新エッセイ。

『オジの逆襲 沖縄オバア列伝番外編』

沖縄オバア研究会オジ調査室
双葉社 2002年4月 1365円

「沖縄オバア」が、流行だという。それと比べると影が薄い
「沖縄オジ」のお話。

『おとうさんがおとうさんになった日』

長野ヒデ子作 童心社 2002年5月 1365円
絵本・こどものひろば。

『女と男 のびやかに歩き出すために アジアの片
隅日本から、このいまを問いなおす』

彦坂諦著 梨の木舎 2002年6月 2625円
ここ十数年の著作がまとめられている。労働、天皇制、男性
神話、戦争などについて。

『女は私で生きる』

アエラ編集部編 朝日文庫 2002年7月 672円
タイトルの意味は、「女である私が、私として生きる」という
ことなのだろう。いろいろな職業を持つ女性たちの生の声が、
テンポよく紹介されている。結局は、「自分として生きる勇気」
が大切、ということか。

『北村玲子写真集 時代を生きる女性たち』

北村玲子著 草の根出版会 2002年6月 2310円
新婦人しんぶん編集部記者として、40年間、女性たちの運動
や生活を撮り続けた北村玲子の写真集。クローズアップされ
た女性たちのリアルさ、たくましさ。

『憲兵だった父の遺したもの 父娘二代、心の傷を見
つめる旅』

倉橋綾子著 高文研 2002年2月 1575円
臨死の病床で中国人へのお詫びの紙切れを託された娘は、旅
に出た。父の生をたどることにより、「親の陰をうけつぐ」意
味をかみしめていく。

『心のコートを脱ぎ捨てて』

増田れい子著 岩波書店 2002年5月 1680円
四季の移り変わり、食べものこと、働くこと、平和と戦争、
身の回りのことから地球上に起きていることまで、著者のエ
ッセイは心にしみる。

『言葉果つるところ 鶴見和子・対話まんだら 石牟礼
道子の巻』

鶴見和子 石牟礼道子著
藤原書店 2002年4月 2310円
1976年、水俣病調査団の一員として水俣入り
した鶴見は石牟礼に会う。のちに「内発的発
展論」として結実する出会いだった。「魂」を
生きる二人の、たっぷり4日かけた対談が、
300頁を超える対話集として刊行された。

『「懲りない女」の罪と罰 「懲りない女」女囚日誌シ
リーズPART2』

横田百合子著 日新報道 2002年4月 1575円
覚せい剤取締法違反で、三度女性刑務所に入った著者の体験記。

『五線譜の薔薇 音楽史を彩る女性たち』

萩谷由喜子著 ショパン 2002年6月 1680円
シューマンやブラームスと同時代にも、多くの魅力的な女性
作曲家、演奏家、声楽家たちがいて、それぞれの生を生きて
いたのだということに改めて気づかされる。

『従順な妻』

ジュリア・オフエイロン著 荒木孝子 高瀬久美子訳
彩流社 2002年7月 2625円
息子と二人でロスアンジェルスに住む女性を軸に、カトリッ
ク司祭と無神論者との恋、思春期の少年の不安定な日常を描

き、家族、夫婦、親子とは何かを問いかける小説。「従順な妻」というタイトルに皮肉が込められている。

『東京六大学野球 女子投手誕生物語』

手束仁著 アリアドネ企画 2002年4月 1680円
東京六大学野球に実現した二人の女性投手の物語を取材でまとめている。描かれているのは話題づくりの「人寄せパンダ」などではない、着実なバイオニアとしての姿である。

『聖書を彩る女性たち その文化への反映』

小塩節著 毎日新聞社 2002年4月 3990円
旧約聖書、新約聖書に現れる女性たちの生き方や精神に迫り、彼女たちに魅了された画家たちの描き方も考察する。女性社会の時代にも力強く生きた女性たちの姿が浮かび上がる。

『そしてママはスチュワーデスになった』

田中薫著 新風舎 2002年3月 1470円
2歳の男の子のいる専業主婦がスチュワーデスになった。

『名前のない女たち 企画AV女優20人の人生』

中村淳彦著 宝島社 2002年6月 1890円
単体AV女優やグラビアを飾るモデルと違い、「企画AV女優」は名前さえ紹介されず、日雇い労働者のように、呼ばれた現場でセックスを披露し、消えていく。そういう「女のコ」20人取材した。

『パンツが見える 羞恥心の現代史』

井上章一著 朝日新聞社 2002年5月 1470円
つい50年ほど前までは、パンツをはく習慣はなかったそうだ。パンツを題材にした、羞恥心をめぐる風俗誌。

『秘密 パレスチナから桜の国へ 母と私の28年』

重信メイ著 講談社 2002年5月 1575円
連合赤軍の重信房子の娘として生まれた著者の手記。東京で学生生活をしながら、拘留所に面会に通う日々を送っている。「この母の子に生まれたことを誇りに思う」と言い切ることができる誇りとやさしさと聡明さがあふれている。

『不美人論』

陶智子著 平凡社 2002年5月 756円
よきにつけ、悪しきにつけ、「美人」ばかりが注文される世の中。では、「不美人」に光を当てて、世相を切ってみようか…という本。

『ブラック 人種と視線をめぐる闘争』

萩原弘子著
毎日新聞社 2002年6月 3360円
黒人視覚芸術にみる「闘争」に焦点を当てている。黒人文化の政治学(第1章)、黒く輝く映像(第2章)、黒く深い歴史の海へ(第3章)。



『炎の女帝 持統天皇』

三田誠広著 学研文庫 2002年3月 714円

『ミラクル! 母娘で通うハーヴァード』

ブルック&ジーン・エリソン著 田中樹里訳
文藝春秋 2002年7月 2300円

11歳のとき事故に遭い、首から下の麻痺という四肢障害を乗り越えて、ハーバード大学を卒業するまでのブルックと介助をしてきた母親の物語。前向きで強い姿勢と明るさで「奇跡」を起こした。

『娘が『できちゃった婚』したとき!』

沖藤典子著 主婦と生活社 2002年7月 1365円
娘が働く母親になる——。そのとき若祖母(ヤンババ!?)はどうする? 明るく幸せな娘のお産と、それをとりまく人々を描く初老期ドキュメント風エッセイ。

『目を見開いて』

ユルスナール著 岩崎力訳 白水社 2002年4月 3360円
アカデミー・フランセーズの初の女性会員となったユルスナールの対談集。

『ゆめはるか吉屋信子 上下 秋灯(あきともし)机の上の幾山河』

田辺聖子著 朝日文庫 2002年5月 各1050円
男性中心の文学界では「少女小説」と片づけられてしまう吉屋信子の世界であるが、「お聖さん」の目からみると、こんなにも社会性をもった世界だったのだ。

〔女性史・歴史〕

『お産の歴史 縄文時代から現代まで』

杉立義一著 集英社新書 2002年4月 756円
太古の時代から現代までのお産を、様々な文献資料を参照してたどった。平安貴族のお産の様子や、江戸時代の産科医学書など、興味深い記述も多い。

『娼婦のルーツをたずねて 京都、そして江戸・大阪』

豊浜紀代子著 かもがわ出版 2002年6月 1575円
万葉時代から売春禁止法までの『性を売る仕事』の歴史。しかし、「性を売る」ことが女性の生や性にとってどういう意味をもつのか、買う方は…などの記述はない。

『戦争花嫁 国境を越えた女たちの半世紀』

林かおり 田村恵子 高津文美子著
芙蓉書房出版 2002年5月 2100円
異なった教育、結婚歴を持ち、現在住む国も違う3人の女性がそれぞれの視点で「戦争花嫁」取材し、1冊の本にまとめた。「花嫁」と「戦争」が合体するこの言葉には、濃厚な「性」のイメージがつきまとっている。

『中世を生きる女性たち ジャンヌ・ダルクから王妃エリザベータまで』

アンドレア・ホブキンズ著 森本英夫監修
原書房 2002年5月 1890円
男性優位キリスト教支配の重苦しい時代という印象が強い中世にも、その時代を駆け抜けた女性たちがいる。しかし、本書は、単なる有名な中世女性の偉人伝ではない。「生きざま」という点で、私たちが共通項を持っている生身の女性たちの人間像が迫ってくる。

『美女たちの日本史』

永井路子著 中央公論社 2002年7月 1575円
推古帝から奈良朝最後の女帝称徳天皇まで170年余の間は、

女帝8代、男帝も8代の五分五分だったということ知っていた？ 女の視点で歴史をみれば、新たな人物像と女の歴史が見えてくる。歴史上ユニークな女性たちの物語。

〔自伝・評伝〕

『奇跡の少女ジャンヌ・ダルク』

レジーヌ・ペルヌー著 塚本哲也監修 遠藤ゆかり訳
創元社 2002年5月 1470円
ジャンヌ・ダルクの生涯を絵や写真を使いながら、追っている。

『虐待の連鎖 スモール・サクリファイズ 上下』

アン・ルール著 曾田和子訳
実業之日本社 2002年5月 各1953円
父親からの性的虐待、代理出産、自らの子どもたちへの虐待、わが子の銃撃、裁判闘争、脱獄未遂と、すさまじい実話をもとに描かれたノンフィクション。

『国立療養所の女医として』

早田早苗著 国書刊行会 2002年6月 1575円
広島、神奈川、東京の国立療養所で勤務した女性医師の自伝。患者に告訴され、医者辞めてから20年たって整理できた心情。

『シャネルの真実』

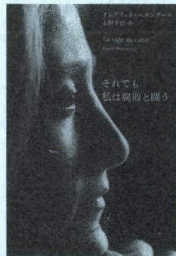
山口昌子著 人文書院 2002年4月 1995円
フランスモードの女王と呼ばれたシャネルの人生を、取材やインタビューで綴る。20世紀フランスの激動と共に生きた記録である。

『親愛なるマリー・キュリー 女性科学者10人の研究する人生』

猿橋勝子監修 東京図書 2002年5月 1890円
女性科学者たちが、研究の道のりや成果と共に人生を語る。国際的にも広く活躍している彼女たちの素顔も。あとに続く女性たちへのエール。

『それでも私は腐敗と闘う』

イングリッド・ベタンクール著 永田千奈訳
草思社 2002年5月 1890円
外交官の娘として裕福に育った娘は、祖国の腐敗を見逃せず国会議員になる。大統領の収賄容疑を厳しく追及し、大統領選に立候補。選挙前に誘拐され、まだ行方不明。先日、誘拐者の手によるビデオでやつれた姿を見せている。コロンビアで現在進行中の話である。



『囚われのチベットの少女』

フィリップ・ブルサール ダニエル・ラン著
今枝由郎訳 トランスビュー 2002年5月 2100円
中国によるチベット占拠の反対運動をした尼僧は、投獄されて10年。非暴力抵抗運動の象徴となった「不屈の女」の半生記。

『母の手を逃れて』

ジョジアヌ・ペラン著 朝比奈弘治 岩澤雅利訳
紀伊国屋書店 2002年6月 1680円
母親からの虐待に傷つけられた少女の回復と自立への道のり。

救いを求める子どもたちに何が必要かを教えてくれる。希望をもって綴られた自叙伝。

『フク・ホロヴァーの生涯を追って ポヘミアに生きた明治の女』

吉澤玲子著 草思社 2002年3月 2625円
明治の時代にボヘミアという遠い国にわたった女性の生涯。著者が15年かけて発掘した記録である。

〔高齢・福祉〕

『フォト・ドキュメント いのち抱きしめて 在宅介護13年』

田沼祥子(文) 田邊順一(写真)
日本評論社 2002年5月 1985円
進行性核上性麻痺という難病の夫を在宅で見た13年間の記録。医療と福祉と在宅介護の問題を考えさせられる。

『夫の定年、妻の定年』

北連一著 実業之日本社 2002年7月 1575円
いわゆる「定年期」になる前に、夫婦関係をもう一度見つめ直し、お互いしっかり向き合う必要があるようだ。

『描かれたエルダー』

日本経済新聞社編 集英社発売 2002年4月 1470円
高齢者をテーマにした小説、映画、テレビなどの登場人物を描いたコラムをまとめたもの。日経新聞連載中から評判だったというが、本にまとめたものを改めて読むと、人間の本質がつかめるようで面白い。

『高齢化と少子社会』

金子勇編著 ミネルヴァ書房 2002年5月 3675円
長寿化少子化が進む日本社会、高齢化社会の現状と理論、少子高齢化と男女共同参画社会等、体系的な理論と課題解決策を提示する論文集。

『「高齢者神話」の打破 現代エイジング研究の射程』

安川悦子 竹島伸生編著
御茶の水書房 2002年4月 3675円
エイジング研究という分野が本格化してきた。老いをめぐる観念の変容やジェンダーと老い、政治や経済まで多様な視点から論述した老年学の論文集。「女性の神話」と「老いの神話」は出色。

『高齢者の人権 看護・介護からの接近』

橋本久子著 ナカニシヤ出版 2002年4月 1890円
高齢者入所施設の処遇過程での権利侵害問題を、法的側面から検討している。法的整備が必要なようだ。

『「住み慣れた家」で安心して老いる わが子をあてにせず老後を生きるヒント』

香取眞恵子著 大和出版 2002年4月 1365円
高齢期を自分の家で、ゆったりと過ごすためのヒント。

『社会福祉基礎シリーズ⑩ ソーシャルワーカーのための介護』

是枝祥子 渡辺裕美編 有斐閣 2002年5月 1995円
ソーシャルワーカーも介護を知らなくてはならない。そのための実践的テキスト。

『年をとる楽しみ』

吉沢久子 上坂冬子著 清流出版 2002年6月 1470円
自称まあい派(吉沢久子)とトンガリ派(上坂冬子)の対談集。

『老後は誰と暮らしたい?』

門野晴子著 大和書房 2002年4月 1470円
女たちの老後をどこでどのように過ごすか? どんな選択肢がある? 老後の「夢」を語ってもらい、それを筆者独特の言い回しでおもしろく検討する。

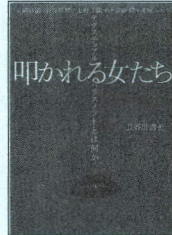
『老婆は一日にしてならず』

吉永みち子著 東京書籍 2002年6月 1470円
団塊世代が50歳を迎えて、迫り来る自分の老後を考えて。寿命の長い女がシャッと老いるために必要なことは? 笑いながら高齢社会と自分の老後を考えさせられるエッセイ。

〔メディア〕

『叩かれる女たち テクスチュアル・ハラスメントとは何か』

長谷川清美著 廣済堂出版 2002年6月 1785円
テクスチュアル・ハラスメントとは何か、その発生のメカニズムを示し、実際のテクハラ訴訟を事例として取り上げている。メディアにおける女性政治家の描かれ方の分析も興味深い。
著者のテクハラの視点による分析に、なるほどと納得する部分もある。テクハラを理解するための入門書として、良い。



〔資料〕

『高良とみの生と著作 第7巻～第8巻』(全8巻完結)

青木生子 一番ヶ瀬康子 高良留美子著
ドメス出版 2002年4月
第7巻 使命を果たして 1955-92 5775円
第8巻 母と娘の手紙 6300円

『女性労働白書 平成13年版 働く女性の実情』

厚生労働省雇用均等・児童家庭局編
(財)21世紀職業財団 2002年4月 1890円

『性と生殖の人権問題資料集成 第33～35巻』

不二出版 2002年7月 7850円(分売不可)

『世界女性学基礎文献集成 昭和初期編』

ゆまに書房 2001年12月 211,050円(分売可)

『〈戦時下〉の女性文学 全18巻』

長谷川啓著
ゆまに書房 2002年5月より 247800円(分売可)

『男女共同参画白書 平成14年版』

内閣府編
財務省印刷局 2002年6月 2730円
CD-ROM付き。



『台所空間学事典』

北浦かほる 辻野増枝著 彩国社 2002年 3570円

『賃金データ調査シリーズ1 能力・仕事別賃金の実態 情報サービス職種の賃金相場』

流動化・個別化時代の賃金決定に関する調査研究委員会
社会経済生産性本部生産性労働情報センター
2002年3月 3150円

〔雑誌〕

『アディクションと家族 Vol.19 No.1 日本嗜癮行動学会誌』

家族機能研究所 IFF出版部ヘルスワーク協会
2002年4月 1680円
特集は「嗜癮とサバイバー」。「引きこもりというアディクション」を起こしている状況で、いかにコミュニケーション不全、共依存支配関係をくずしていくか。

『法律のひろば 2002年2月号 男女共同参画社会の現状と今後の課題』

内閣府男女共同参画局 大沢真理他著 ぎょうせい
2002年2月 641円
男女共同参画政策の特集。最近の政策や動向の一般的解説。



今年も出ました

『女たちの便利帳 4』

ジョジョ企画 2002年6月 2940円
全国の女性たちの活動を一堂に紹介するこの本も、今年で4冊目。確かに便利。前号よりもっと読みやすくなっている。



新しく出ました

『共同参画21 No.1』

内閣府編 2002年7月号 600円
内閣府が編集する、「男女共同参画の総合情報誌」(隔月刊)が創刊された。行政系の女性政策新情報の継続把握に便利。



ミニコミ・ミニコミ

ウィメンズブックストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です

「女たちの21世紀 No.30 特集：拡大する原理主義勢力と女性たちの抵抗—アフガニスタンと世界の女性たちの声」

アジア女性資料センター 2002年4月 1260円

「あごら 276号 有事立法は戦争協力法」

女による女のBOC出版部 2002年6月 977円

「季刊i・MA 第7号 特集：もう一人の家族 ベットと暮らす」

i・ま編集部 2002年7月 480円

「FLCニューズレター No.43 特集：パートナーシップを考える」

女性ライフサイクル研究所 2002年7月 315円

「女のためのクリニックニュース」

ウィメンズセンター大阪 2002年5~7月 各420円

No.205 200号記念座談会・不妊を考える連続講座「養子縁組とは③」/No.206 加藤シズエ賞を受賞!・不妊は生き方の問題〜「女の中から・私自身—セックスと不妊」/No.207

更年期をテーマに連続講座

「おんなの叛逆 No. 50 特集：リブ運動30年のいま」

久野綾子 2002年7月 525円

「くらしと教育をつなぐWe」

フェミックス 2002年5~8-9合併月 680円

No.102 ジェンダーと人権(女と男で考えるSTOP痴漢犯罪シンポジウム報告)/No.103 力の再定義・女と力・英会話と、仕事と、人生ほか/No.104 ワークシェアリングの可能性を探る/No.105 からだが一番!—ワーク&ヘルスのバランス

「Green Letter」大阪心のサポートセンター 2002年5・7月 525円

VOL.25 インタビュー「暴力は嫌だという本人の意思が大事」

小谷晴子(元大阪府立女性相談センター相談員)/VOL.26

インタビュー「女男の区別を超えて」駒尺喜美(ライフアーティスト)

「月刊家族」家族社 2002年5~7月 315円

195号 この国の介護保険制度—ケアマネジャーの視点/

196号 <女の本>出版社をおこした女たち/197号 邦子のネットワーク・フットワーク④、女性学関連講座—広島県内

大学・短大36校中23校が開講

「50%」女性連帯基金 2001年3・7・11・2002年3月 525円

No.10 50対50グローバルキャンペーンを日本国内でも展開を!・埼玉県男女共同参画推進条例報告/No.11 女の名を書こう!/No.12 女性と参議院選挙/No.13 女性ゼロ議会

撲滅本部設置

「職場の人権 17号 雇用の男女平等を考える—ケア不在の男性(稼ぎ手)モデルからケアつき個人単位モデルへ：竹中恵美子」

研究会「職場の人権」2002年7月 840円

「女性としごと NO.37 女と男—労働現場からの平等を求めて」

労働大学 2002年5月 500円

「シングルス・ネット VOL.55 2月例会報告『シングルという生き方』について」確信犯?シングルの会 2002年5月 263円

「世界女性会議ネットニュース No.36 有事法制は国民に危険を押し付ける」世界女性会議ネットワーク関西 2002年6月 630円

「戦争と性 第17号 特集：我が反戦の思い—今こそ生かしたい、日本の「過去」の教訓」 「戦争と性」編集室 2002年4月 630円

「パワーアップ・ニュース VOL.39 舞踏家ハイティ・S・ダーニングさん 舞踏と共に生きる」

パワーアップ・プランニング 2002年7月 315円

「ひとりから 第14号 南米こころの細道(連載第5回)：もろさわようこ」

編集室ふたりから 2002年6月 1050円

「ファイト・バック Vol.50 性暴力と国際法」

性暴力を許さない女の会 2002年7月 525円

「フィフティ・ネット VOL.5 全国に浸透しているバックアップスクール」 NPO法人フィフティ・ネット 2002年7月 525円

「婦人通信」日本婦人団体連合会 2002年6~8月 300円

No.526 男の結婚観/No.527 魅せられて気がつけば仕事に・乳がん最前線/No.528 再び戦争を起こさせないために

「Fifty・Fifty Vol.44 特集：子育てをめぐる大人の責任」

中島美幸 富士都弥子 2002年7月 450円

「Voice」

なくそう戸籍と婚外子差別・交流会 2002年4~6-7合併月 210円

第127号 原告側準備書面(8)—求釈明/第128号 戸籍続柄差別裁判第11回口頭弁論への傍聴を/第129号 弁護士報酬の敗訴者負担制度反対書名

「VOICE OF WOMEN」日本女性学研究会 2002年5~7月 158円

No.231 The Making of『女性学年報』23号by編集委員会/

No.232 私の「ジェンダー論」/No.233 スウェーデン社会—「個人の時代」に連動する夫婦別姓・私の「ジェンダー論」と「公共彫刻の男女像」

「月刊むすぶ」ロシナンテ社 2002年4~6月 各840円

No.376 岐路に立たされる「食品」表示/No.377 (非・国民)の教育権、有事法制を考える/No.378「ごみ」問題に勝つ!

「モテない問題を考える会通信 第12号 きれいになりたい(ですか?)/摂食障害と優等生問題」モテ問 2002年5月 210円

「れ組通信」れ組スタジオ・東京 2002年5~8月 525円

No.181 レズビアンと暴力/No.182 「れ組スタジオ・東京」の15年/No.183 レズビアン・ゲイ映画祭/No.184 おんな旅・私と遺言

「立命評論 No.106 特集：戦争・国家・グローバリゼーション」

立命評論編集部 2002年4月 500円

「わいふ 296号 新連載：東エルサレムに住んで」

わいふ編集部 2002年7月 620円

「女(わたし)のからだから」

SOSHIREN・女(わたし)のからだから 2002年5~7月 315円

No.199 SOSHIRENが、内閣府生命倫理専門調査会のヒアリングを受けた/No.200 厚生科学審議会生殖補助医療部会議事録から/No.201 中絶禁止派が中学生向け冊子「ラブ&ボディBOOK」配布中止を要求

■ 単発もの

「あなたも使える 女性のための国際やくそく」

女性差別撤廃 条約・選定議定書の批准を促進する会

2002年3月 945円

「やさしい英語でフェミニズム」フェミックス 2002年4月 1260円

「ふきげん関係 親をやめたくるとき、子どもをやめたくるとき」

AKK・アディクション問題を考える会 2002年4月 1575円

「私の生(いのち)は私のもの記録」

全国女性シェルターネット 2000年東京大会実行委員会

2001年5月 1050円

「DVのない地域を創っていこう 報告集」

全国シェルターシンポジウムin旭川2001・実行委員会

2002年4月 1260円

「比べてみれば…「私」のまちの条例・計画」

WIN-L 条例・計画調査プロジェクト 2002年6月 840円

「DVにとりくむ~医療現場でできること~」

女性への暴力を許さない女たちのネットワーク 2002年3月 1050円

「第6回男のフェスティバルin九州~あたらしい男(わたし)報告集」

第6回「男のフェスティバル」実行委員会 2002年3月 735円

「幼稚園・保育園ガイド 大阪市内・北摂・兵庫阪神版」

くらむぼん 2002年6月 1980円

「摂食障害問題対応マニュアル 援助の限界と可能性とは?」

NAVA日本アノレキシア・プリミア協会 2002年3月 1575円

「親の暴力に傷ついた子どものケア」

AWS女性シェルター 2001年10月 1050円

「援助者のためのDV被害者支援」

DV被害者支援ブックレット作成委員会 2002年3月 1050円

「地域の仲間として在日アジア人女性が地域での子育て、生活について語る」アジア女性自立プロジェクト 2002年4月 525円

「女性への暴力に関する市民意識調査報告書」

うじパワフルウィミン 2002年5月 525円

「連続講座：条例から始まる男女平等社会」

第1回~8回 女性連帯基金(WSF) 2000年10月~2001年6月

各回報告書一冊1000円

「ノルウェー国会議長と男女平等オンブッドを迎えて こうして創った世界一の男女平等社会」女性連帯基金 2001年1月 525円

特集

時にはマンガを…その1 『イグアナの娘』

桂 容子 (日本女性学研究会会員)

かつて、マンガは子どもしか読まないものだった。おもちゃと同様、学校へ持ってきてはいけないものだった。当然、文部省推奨のマンガなどというものもなく、「読まないといけないマンガ」も、「読むとためになるマンガ」も、「それくらいは読んでおかないと教養がないと思われるマンガ」も存在せず、マンガはただ、自分がおもしろいと思うか否かだけで選択する、今思えば親も全く介入してこない私の解放区だった。団塊の世代は大人になってからもマンガを読む最初の世代と言われるが、たしかに私にとって今も、マンガは自分の趣味嗜好だけで耽ることのできる解放区である。

正直なところ、フェミニストの視点で描かれているから、とか、人権を重視しているから、とか、そういう観点でマンガを読むことはない。説教臭いマンガなんて、まっぴらである。マンガはやっぱり、面白がらせてくれなくちゃ。くすすと、あるいは、わははと、笑わせてくれなくっちゃ。それから、小説や論文のような文章作法にない表現手法で、幾重にも入り組んだ意味合いを一コマで著してくれて、こちらの意表をつくような絵と言葉が随所に出て来なければ…。

いつ頃だったか忘れたが、長らく退屈なものとして遠ざけていた少女マンガを久しぶりに読んだとき、その新鮮な表現手法に驚いたものである。なにしろ、よくあるタイプの美少女のヒロインやそのハンサムな彼氏などが、突然、あるコマで、ギャグの顔になったりするのだ。あるいは、真面目な美形の顔のまま三頭身になったり、顔の造作が驚きのあまり全部顔の輪郭の外に飛び出したり、顔に似合わぬ駄洒落を飛ばして回りをずっこけさせたり、二の線と三の線の行き来が自在になっているのだ。「いつから、少女マンガって、こんなに面白くなったのお〜?」と私は大感激した。大人になってずいぶん経ってから、またもや少女マンガを読むようになった。

お気に入りはいくつもある。今回は、中でも、私が天才だと信じている萩尾望都の『イグアナの娘』(1991年)を紹介したい。

萩尾望都は最も好きなマンガ家だったが、この『イグアナの娘』は読んでいなかった。テレビドラマ(1996年)になったのもウワサでは知っていたが、見ていなかった。発想が月並みだと思ったのだ。私自身がイグアナという動物の存在を知ったときの驚き。その異様な容貌や棲息する地域のドラマチックなこと! テレビで見た醜怪な顔を忘れることが出来ず、イグアナは、私の中で忌避したいのにしきれない、テレビで特集されると見ないではいられない、奇妙な存在として心の中に住むようになった。だから、この動物のドラマ性に依拠して創作するなどありふれた発想だと思ったのだ。しかし、ある日、たまたまこの『イグアナの娘』を読んで、私はもうびっくりした。「な

んて、すごいマンガだったのお〜」と、それまで読もうとしなかった自分を恥じた。萩尾望都は、イグアナの奇怪な容貌をモチーフに母娘関係の内的な葛藤のドラマを描いていた。母が自分の産んだ娘に見るのは、自分が否認し、無意識の世界に封印してしまった醜い自分、忘れてしまった自分自身である。徹底的に否定し、葬り去った異形の自分が、紛れもない自分の分身として生まれてきたのである。母の動転ぶり、娘を拒否する母、娘に対する冷たい仕打ち、しかも母は、その理由が自分にあるのを知らない。そして、母によって形成される娘自身の自己イメージ、愛してくれない母への恨み、娘の切ない独立心、そうした深刻な心の葛藤が、巧みな絵と筋運びで見事に描ききってある。そして頃合いよく挿入されるギャグタッチのコマ。妹にブスだとからかわれてその頭をゴンと殴るイグアナの姉や、初めてのデートの前、ルンルンとからだを洗っていて母親から長湯をこっぴどく叱られびっくりしてひっくりかえるイグアナの娘など、コミカルな絵がシリアスなテーマを救っていて、何とも巧みなものだ。短編だが、傑作だ。

萩尾望都の作品には、ジェンダー世界に生きて「女」とカテゴライズされ、「女」役割を遂行することを強制されてきた者のやるせなさが垣間見える。男の子同士の間柄を描いた作品であっても、それは「女」性に傷ついた少女にしか見えない。彼女の描く少年たちは、実は少女たちなのだろう。少女たちにとっての軛であるジェンダーやセックスそのものを根源的に問おうとする彼女の作品は、人間の心の襞の奥から宇宙の彼方まで時空を越えて駆けめぐり、メタファーやシンボルによる込み入った文法を彼女の愛読者と共有しながら、直感的非言語的な解説を読む者に迫ってくるのである。



(株) 小学館 1994年出版 530円(税込)

桂容子さんプロフィール

1950年、京都生まれ。1970年代にフェミニズムに出会い、以来、自主学習グループや翻訳グループなどに関わってきた。気がつけば、フェミニズム(の一端)が仕事になる時代が訪れており、現在は、自治体で男女共同参画に携わる専門の非常勤職員、大学でジェンダー論の授業を担当する非常勤講師をしている。

HOT・FILE

会員の皆さんのページです。さまざまな情報交換や、プロジェクトの呼び掛けなどにご利用ください

第一回おんたちの映像祭・大阪

～女たちの映像を女たちで上映し、語り合い、女の文化を作ります！～

下之坊修子 (ビデオ工房AKAME)

○2002年11月29(金)、30(土)、12月1日(日) ○とよなか男女共同参画推進センター “すてっぴ” ホール

○主催: 「波をつくる女たちSister Waves」(ビデオ工房AKAME/ウィメンズアートネットワークWAN)

「ビデオ工房AKAME」ができて今年で10年。何も知らないところからの出発だったが、とにかく女性の問題を女性が発信していく必要があると考え、女性の視点を大切にビデオ作品の自主制作から始め、その後、いろんな女性やグループとともにビデオを制作してきた。たくさんの方達のおかげでこまでくることができたと思う。

記念になるようなイベントを考えていたところ、「おんたちの映像祭を一緒にしませんか。ソウルや台湾のような、民間主導の手作りの映画祭を」と声をかけていただき、「第一回おんたちの映画祭・大阪」を開催することになった。

今年のソウル女性映画祭に参加したが、参加作品は、フェミニズムの視点でしっかり作られていて、センスのいい、ユーモラスな作品がめだった。行政がバックアップしているらしいが運営がすばらしかった。秋にある台湾の映画祭は、もっと民間主導の手作りだそう。

「おんたちの映像祭」で、AKAMEはこれまでの10年を振り返り、また、韓国の女性達が制作した作品の上映もする。山形国際ドキュメンタリー映画祭で出会い、韓国の全州映画祭や、ドーンセンターの映像祭でも交流を重ねてきた女性たちである。文化の違いはあれ、女性の抱えている問題の共通点が見えてきている。

「おんたちの映像祭」を通じて、女性のビデオ制作者が増え、各国の女性達が連帯していけたらと願う。

予定
上映作品

- 「女書」Yue-Qing Yang 中国・「タンポンの使い方を教えます?!」Seong Saeron 韓国
 - 「音楽の力を信じますか」ida 韓国・「女となることはライオンとくらすことなのか」Yun eun-jeong 韓国
 - 「何をしてるの?」Sun Yu-Pei 台湾・「そして彼女は片目を塞ぐ」根来裕 日本
 - 「ミエナイセン」宮原美佳 日本・「At Any Place4 主婦のタンゴ」出光真子 日本 他
- *期間中、オープニング、シンポジウム、交流会、監督と話し合う時間など多彩な内容を予定

- 作品募集中 (3分以内の作品を映像祭期間中会場にて公開上映)
- 設立協力金1万円のご協力をお願い! (郵便振替 00920-8-176781 シスターウェイブス)
協力していただいた方にはチケット10枚(1枚800円)を10月に送ります。
- 事務局: ビデオ工房AKAME Tel&Fax 06-6370-8568 E-mail akamev@osk4.3web.ne.jp

～めざせ2003年統一地方選挙～
2002バックアップスクールin関西 開校

2003年の統一地方選挙を目前に控え、今年度は実践的なコースを開校。

「'03女性と政治キャンペーン」・2003年5月開催の「議員・支援者のための議員力・市民力パワーアップコース」と連動しています。

- 日時 11月2日(土)～11月4日(月・振替休日)
- 場所 ドーンセンター(大阪府立女性総合センター)など
- 受講料 33000円(会員は30000円)
※宿泊費は別途(宿泊は、一泊朝食付6000円程度で紹介しします)
- お問い合わせ・申込 NPO法人 フィフティ・ネット～女性と政治・政策センター～
- 連絡は火・水・木10:00～16:00 Tel/Fax 06-6355-7140
E-mail fifty@triton.ocn.ne.jp URL <http://www4.ocn.ne.jp/~fiftynet/>

わたしの推したい本

『中国女文字研究』

遠藤 織枝著

明治書院 2002年 2月 16800円(税込)

岩本真理 (大阪市立大学教員)

前著『中国の女文字―伝承する中国女性』(三一書房)のあとを受け、十年にわたる丹念なフィールドワークをまとめた労作である。女文字の「発見」から迫害へ、資料の焼失・紛失が続いた時期を経て、今や充分な調査や保護対策もないままに、観光資源としての活動が模索される現地の事情にもふれる。本書で特筆すべきは、女文字伝承者自身の「字」が整理された形で巻末にリストアップされていることである。驚くべきことに、従来の研究書では、この基本的な作業さえないがしろにされていた。

女文字は、使用者同士の絆(結拜姉妹という制度)がない所には、成立しえない。また、一旦習得されても複雑な字形ゆえに継続して使用される機会に恵まれないと忘却されてしまう。「読み書き」のできる女性が、「書けない(書けなくなった)」女性に代わって書き残した「自伝」(歌の形式をとるもの)も極めて貴重である。

ウィメンズブックストア5
5・6・7月ベストセラーTOP

1. ジェンダー・フリーは止まらない! ―フェミバッシングを超えて
上野千鶴子/辛淑玉著 松香堂 945円
2. ジェンダーがわかる AERA MOOK
上野千鶴子 加藤秀一他多数著 朝日新聞社 1260円
3. 女性施設ジャーナル<'02年版>
(財)横浜市女性協会 学陽書房 1575円
4. サヨナラ、学校化社会
上野千鶴子著 太郎次郎社 1838円
5. 配偶者からの暴力 相談の手引
内閣府男女共同参画局編 財務省印刷局 735円

ウィメンズブックス

WBからの風

『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです

「第1回ウィメンズブックスフォーラム」開催

<ウィメンズブックス創刊20周年 & ウィメンズブックストア ゆう設立記念>

「21世紀フェミニズムの最前線」

(5月26日(日) ドーンセンターにて)



(上野千鶴子 & 中西豊子のトーク)

1986年、松香堂書店主催の講演会で「フェミニズムの最前線」を語った上野千鶴子さんに、16年後の「21世紀・フェミニズムの最前線」を語っていただきました。後半のトークでは、ウィメンズブックスを20年に亘り発行してきた中西豊子さんと上野さんの息の合った爽やかなかけ合いが展開されました。

「今日は同窓会へようこそ…」という上野さんの第一声のとおり、ウィメンズブックスとともに歩み、ウィメンズブックストアを支えてくださっている多くのフェミニストたちが全国から集った、素晴らしい一日でした。



花束の贈呈

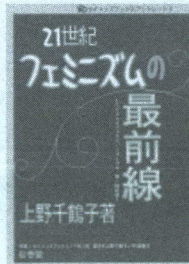
第一回ウィメンズブックスフォーラムの記録がウィメンズブックレットNo.9になります。

(9月刊行予定)

「21世紀フェミニズムの最前線」

上野千鶴子 中西豊子

松香堂書店刊
945円(税込)



予約販売受付中

ウィメンズブックストア ゆうまで

■原稿募集

書評やアピール、イベント情報などを400字以内でおよせください。投稿は会員の方に限らせていただきます。たくさんのご投稿をお待ちしています。

<原稿の受付先>

〒534-0025 大阪市都島区片町1-4-2 シャトーテル大手前317
NPO法人 フィフティ・ネット 「ウィメンズ ブックス」係
Tel・Fax 06-6355-7140
E-mail fifty@triton.ocn.ne.jp

次号の締め切りは2002年10月20日です(発行予定日11月25日)

■「ウィメンズブックスクラブ」入会のご案内

入会は随時受け付けています。何月に入会されても年度内の「ウィメンズブックス」を全号お送りいたします。下記口座に会費をお振込みください。詳細はブックショップまたはオフィスにご連絡ください。

- 「ウィメンズブックス」を、年4回お届けします。
- 会員の方には、入金確認前でも本をお届けいたします。
- 「ウィメンズブックスクラブ」主催行事の参加費割引などもございます。
- 会員の方が関係されているミニコミ等を店舗で委託販売いたします。
- 年会費 (年度は4月から翌年3月・入会金は不要です)

個人会員	3000円
海外会員・団体会員	3800円
郵便振替口座 00900-5-309395	

ブックショップ/ウィメンズブックストア ゆう

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-49 ドーンセンター1F
電話 06-6910-8627 FAX 06-6910-6115
URL <http://www.nacos.com/shokado/>
Mail shokado@d1.dion.ne.jp
火～金: 午前10時から午後7時
土・日・祝: 午前11時から午後6時30分
(7月より、週末・祝日の営業時間が変更になっています)
月曜・第5日曜定休 祝日代休あり

■リスト書籍をご希望の方へ

書籍をご希望の方は、同封の振込用紙の通信欄に書名、書籍代(消費税込み)を書いてお申送ください。下記の送料共でお振込くださいますようお願いいたします。

電話・FAX・メールでのご注文もお受け致しております。

※ リスト書籍以外のご注文もお受けしております。
※ 電話・FAX・mailでのご注文は「ウィメンズブックストア ゆう」にお申し付けください。
電話 06-6910-8627 Fax 06-6910-6115
E-mail shokado@d1.dion.ne.jp

□9月より個人でお申し込みの場合の送料値下げ!

ご利用いただきやすい料金となりました。

<送料>

個人でお申し込みの場合 書籍代(消費税込み)が15000円以上の送料は無料
書籍代(消費税込み)が15000円未満の送料は一律400円

海外会員・団体会員 別途請求をさせていただきます

■本を早く手にしたい時 ～ブックライナー導入～

従来1～2週間かかっていた本のお取り寄せですが、「ブックライナー」を使うと、3～5日に短縮されます。(取次ぎ店に在庫のある場合) 1冊につき 50円必要です。詳細はお問合せ下さい。

ホームページ リニューアル中 URL:<http://www.nacos.com/shokado>

■メールアドレスをおよせください。

会員のみなさまに新刊案内をいち早くお届けするためのメールサービスを、秋から導入いたします。みなさまのメールアドレスを、「ウィメンズブックストア ゆう」までお届けください。
ウィメンズブックストア ゆう メール shokado@d1.dion.ne.jp

■訂正

NEW5号【リプロダクティブヘルス】の価格 誤 2750円 正 2625円

■編集後記

ウィメンズフォーラム後のパーティで、ウィメンズブックストア ゆうを応援しようとしてくださる皆様たちによって、「姑クラブ」(笑)ができました。

オフィス/ウィメンズブックストア ゆう

〒534-0025 大阪市都島区片町1-4-2 シャトーテル大手前317
電話 06-6355-7155 FAX 06-6355-7155

編集協力/NPO法人フィフティ・ネット

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~fiftynet/>